

## 子ども・子育て支援事業計画にかかる教育・保育の「確保方策」について

## 1 現行計画（中間見直し後）と整備実績

- ◎ 令和元年度において、整備実績（定員数 17,802 人）は確保方策を下回った（-215 人）ものの、量の見込みを上回り（+438 人）、待機児童も 4 人と概ね解消されている状態。

区分	実績	計画期間（各年4.1）					R1	R1-H26 増減
		H26	H27	H28	H29	H30		
計画	量の見込み	13,588	17,772	17,551	17,425	17,286	17,364	3,776
	確保方策	12,410	13,388	14,398	15,511	16,696	18,017	5,607
	整備量(前年度)	-	978	1,010	1,113	1,185	1,321	
実績	申込者数	13,588	14,516	15,356	16,232	16,792	17,501	3,913
	定員数	12,410	13,388	14,134	15,153	16,556	17,802	5,392
	整備量(前年度)	-	978	746	1,019	1,403	1,246	

## 2 次期計画の確保方策

## (1) 基本的な考え方

- ◎ 計画期間内で必要となる保育の受け皿は 3,514 人分。ここから、令和元年度の整備見込み（717 人分）を除いた 2,797 人分について、最初の 3 年間で必要量の 80%分（2,263 人分）を整備し、最後の 1 年間で 20%分（534 人分）を整備する。（現行計画と同様の考え方）
- ◎ 令和 6 年度時点で、全体の定員数では量の見込みを満たす（+352 人）が、年齢別では、1・2 歳児の量の見込みを満たさない（-940 人）ため、定員弾力化により対応する。

## (2) 確保方策の算出

区分	実績	計画（各年4.1）					R6-R1 増減
		R1	R2	R3	R4	R5	
量の見込み（申込数） ①	17,501	22,061	21,915	21,601	21,325	20,964	3,463
確保方策（定員数） ②	17,802	18,519	19,283	20,041	20,782	21,316	3,514
整備量（前年度）	1,246	717	764	758	741	534	
量の見込みと確保方策の差 ①-②	301	-3,542	-2,632	-1,560	-543	352	
うち3歳以上児	375	-765	-509	-88	394	736	
うち1・2歳児	-575	-2,793	-2,231	-1,759	-1,368	-940	
うち0歳児	501	16	108	287	431	556	

## 【現行計画との比較】

- ◎ 整備量については、現行計画 5,607 人（1,121 人/年）に対して、次期計画 3,514 人（702 人/年）になっており、約 6 割程度の整備量となる。
- ◎ 現行計画（中間見直し後）においても、最終年度の H31(R1)年度において、1・2 歳児の需要を満たさない（-525 人）計画となっていたが、定員弾力化により対応。

## 3 受け皿確保にかかる考え方

- ◎ 保育園、認定こども園、幼稚園など既存施設を最大限活用するとともに、それでは保育ニーズの増加に対応できない地域においては、施設等の新設を検討する。